

令和５年度淀川区区政会議第３回安全・安心なまち向上部会議事要旨

日 時：令和６年３月１４日（木） 午後６時３０分～午後８時０３分

場 所：淀川区役所 ５階 会議室

出席者：

- ・委員９名（９名中）

足立委員、大西委員、河野委員、佐々木（健）委員、佐々木（昌）委員
寒川委員、杉原委員、田中委員、前原委員

- ・区役所

岡本区長、橋本副区長、田口政策企画課長、大橋政策企画課長代理、山田市民協働課長、高山市民協働課相談調整担当課長代理、山川保健福祉課長、山崎保健福祉課福祉担当課長代理ほか

内 容：

- １．開 会
- ２．区長あいさつ
- ３．議長・副議長の選出
- ４．令和６年度淀川区運営方針（案）について
- ５．令和６年度淀川区関連予算（案）について
- ６．区政会議におけるご意見への対応方針について
- ７．個別テーマごとの意見交換

資 料：

【当日配付資料】

- ・次第、進行表
- ・区政会議部会名簿、座席表
- ・ご意見票
- ・よどマガ！３月号

【事前配付資料】

- ・（資料１）令和６年度淀川区運営方針（案）
- ・（資料２）令和６年度区長自由経費予算事業一覧
- ・（資料３）区政会議におけるご意見への対応方針
- ・（資料４）個別テーマごとの意見交換について

1. 開 会

2. 区長あいさつ

3. 議題

(1) 議長・副議長の選出

足立委員を議長、佐々木（健）委員を副議長とすることに決定。

- ・前回安全・安心なまち部会のところでは、司会者を輪番制にして順番に議長さんを回していたことがあって、もし皆さんがよければ、順番に1回ずつ議長をやっていただけたら顔を覚えますし、人となりも分かるかなと思うのですけど、どうでしょうか。（佐々木（健）副議長）

⇒検討させていただきます。（田口政策企画課長）

(2) 令和6年度淀川区運営方針（案）について

○令和6年度淀川区運営方針（案）について区役所より説明
意見なし

(3) 令和6年度淀川区関連予算（案）について

○令和6年度淀川区関連予算（案）について区役所より説明
意見なし

(4) 区政会議におけるご意見への対応方針について

○令和6年度淀川区関連予算（案）について区役所より説明
意見なし

(5) 個別テーマごとの意見交換

○部会をさらに二つのグループ（A班・B班）に分けて自由討議を実施。

自由討議の後、各委員より討議内容を発表。

主な討議内容及び区役所からの回答

- ・地震が最近起こったが、区役所については、防災マップというのがこのところの地域は倒壊が多いとか、この地域は道路事情が悪いから救護活動がちょっと難しいとか、この飲食街はどうも火事になりやすいとか、アーケードのここが弱いとか、いろいろな問題点がありますが、そういったものは区役所で把握や対応をされているのか、もしくは何か作成されているのかということをお聞きしたいです。（足立議長）

⇒防災マップというハザードマップについては、道路事情や火事になりやすいところ等のデータはまだ収集しておりませんので、道幅が広い狭いは把握していますが、道路が潰れやすいとかそういうことについては、まだ把握はしていません。

災害時、南海トラフのときの病院とか仮設住宅、病院とは薬品等についていざというときには拠出してくださいという協定は、区内では2つの病院と結んでおりますので、そちらで薬品は確保できるようになっております。仮設住宅の場所とか廃材置場についても、大阪市全体でのお話だと思いますので、特に今のところは区としてはどうするのかというのはありません。また、津波はどれぐらい淀川区が耐えられるのかというデータは取っていませんが、区内の津波浸水想定は最大で3メートル未満です。建物に避難するときに3階以上に避難してくださいということは案内をさせていただいております。それぞれの津波避難ビルにつきましても、それなりの高さのところを指定させていただいております。(山田市民協働課長)

- ・要支援者に関して、今8050問題がまさに真っただ中で、高齢者が増えていく一方の中でなかなか難しい問題ではあるかなと思うのですが、今まで以上に地域の方々の活動と行政側からの連携でより一層支えていくという形を強化していくほかないのかなというように感じました。やはり行政ばかりからといっても仕方がないので、地域の方にも頑張ってもらって、行政と連携して頑張ってもらいたいということが今後求められる姿ではないのかなと思いました。(大西委員)
- ・防災に関して、やはり大阪は災害が少ないので結構安心されている方が多いのかなと思いますが、僕も被災地に赴いた経験があるので、なかなか実際に経験してみないと分からないところがあり、なかなか口では伝えにくいところがあるのですが、要は連絡の手段、いち早く伝えないと、一刻を争うことなので、やはりそういう情報の迅速化というのがより一層重要になってくるのかなと思ってまして、そういう情報の伝達の方法を訓練する意味でも、ふだんの地域の活動の中でもラインだとか、そういうSNSをより活用してやっていくということで、急に起こった災害に対しても巧く行うことができ、慣れていくという意味でふだんからそういうことに触れていくということが大事なのかなと思いました。(大西委員)

⇒連絡手段というか情報手段ですけど、従前から各地域にMCA無線という無線機の配備はしているのですが、それでは不十分だろうというところで、今回地震なんかでいうと、インターネットの回線が早く復旧していたところもありましたので、パソコンというかチームズとか、映像を送り合えるような伝達訓練なんかも今後検討して実施していかないといけないなというところ

ころ。あとラインのやり取りも既に一地域でラインのやり取りの訓練、地域の訓練と区役所でやり取りをといるのをスタートさせておりますので、それを各地域でも広げていきたいなとは思っております。（山田市民協働課長）

⇒大阪市が作っています防災アプリというのがあるのですが、それには大阪市の情報とかアプリで家族や知人の安否情報連絡ができるような形になっているので、できたら多くの方にそのアプリをダウンロードしていただきたいと思っています。（岡本区長）

- ・安全・安心なまち部会ということで、防災で話し合いをさせていただきました。いろいろと問題を抱えているなと感じたのですが、取りあえず東三国地域として、今現在進めております防災マニュアルについて発表させていただこうかなと思います。まだ原案で、完成しているものではないのですが、読ませていただきます。

東三国地区は、自助を基本に大阪市淀川区役所の指導のもと、自主防災組織を編成し、地域災害対策本部、避難所運営、町会本部の3つの組織で行動を行っています。今後も自主防災組織は東三国防災訓練、防災教育、防災講演会などを通じて、日頃の防災への備えと自助・共助の必要、及び防災のスキル向上を図っていきますと、そのような文言を作成いたしました。この中に公助という言葉が入っていないのですが、何かがあったときにはやはり区役所には存分に指示をしてもらわないといけないと思います。（寒川委員）

- ・区長がおっしゃっていた大阪市の防災アプリ、例えば何か有事の際、一斉に皆さんがアクセスしてサーバーがダウンするということも含めて、東三国ではほかの地域でもそうかもしれないのですが、NTTが提供しているウェブ171というのを活用しようかというふうに私どもの地域では進めております。というのもまだ確定ではないのですが、今そういった案が出ているので、紹介という形でさせていただきます。（寒川委員）
- ・野中地域の町会を担当し、防災リーダーを担当しております。それで自助努力ということで、住民の把握から始まっているのですが、自助・共助ということで、地域活動の中での防災活動ということで、今現在は防災マニュアルを各町会で作りなさいということになっています。何かがあったときは一応住民が集まって小学校へ行くということになっているのですが、その後の災害が起きたときに役所を中心としてどういう形の流れで活動というか、進められていくのかなというところ、地域までは分かっているのですが、それがまだはっきりと描けていないのですよね。だからその辺を今日分かればいいかなと思っています。

災害にもそのときに状況があるかと思うのですが、例えば、この間能

登半島でありましたけども、ボランティアを受け入れるのは社協が窓口になるとかということを聞いたのですけども、それ以外に公助の部分ではどういうふうな窓口があるのかなというところが分かれば、また自分たちの活動も広がっていくのではないかなと、考え方が広げられるのではないかなというふうに感じています。(杉原委員)

- ・防災と減災対策ですけれども、それで区民の防災意識とか知識の向上、備蓄促進のために啓発や情報発信をより一層行っていく必要があるというので、去年の年末に、視覚障がい者の防災という講演会が淀川区役所であったので、講演会に参加させていただいたのですけれども、そのときに視覚障がい者の方とどういうことが必要なのかという話合いの場と一緒にいさせてもらったのですが、いざ災害が起こったときに私たちは何もすることができず、災害が起こっていることも気づかないとおっしゃっていて、結局いろいろとシステムがあっても、おうちの中にいたら何も分からないまま災害に巻き込まれてしまう可能性があるから、私たちはどうしたらいいのかなとおっしゃっていて、でもいざ助けてくれるとなっても支援をしてくれている人だったら、この人はどうしたらいいと分かるけど、でも近所の人助けに来た場合って分からないのですよね。この人は何を求めて何をしてあげないといけない人かというのが分からないので、それが分かるように何か示すマークがあればいいのにおっしゃっていて、例えばヘルプマークではないですけど、私は耳が聞こえないのでこうしてくださいとか、私は目が見えないのでこうしてほしいなのがあればいいなというふうにおっしゃっていて、町会とか行われている防災訓練でも、結局は健常者の方向けに行われているのが多いので、結局行ってもらっても私たちは何をしているかが分からないと、だからそれだったら分かりやすいような何かをしてくれたらすごく助かるんだけどなというふうにおっしゃっていたので、その辺で今後どうやったら視覚障がい者とか聴覚障がい者の方が一緒に防災に力を入れていけるというか、どう支援していったらいいのかなとは思っているのですけど、区としてはどう考えているのかなというのはすごく気になる場所なのですからけれども、どんな感じでしょうか。(前原委員)

⇒確かに健常者の方がまず訓練の企画をし、それを区役所の職員と一緒にやって実施しているというのが現状だと思います。その中に今後障がいを持った方とどう一緒にやれるのか、確かに状況をお知らせする方法もこれからいろいろと考えていき、耳が聞こえる方は耳からの情報、見える方については目からの情報と、いろいろな情報をきれいに整理をして、速やかに発信できるような体制はつくっていかないといけないなと今思いましたので、またいろいろと御意見をよろしくお願いいたします。(山田市民協働課長)

⇒個別避難計画というのを災害対策基本法が改正されてつくっていかうということになっています。実際に地域の方をお願いしているのは、日頃の見守りをやはりしていただかないと、いざ災害が起こってから助けに行ったら相手との人間関係ができていなければうまくいかないだろうということで、日頃の見守りをしながらいざ災害が起こったときに、助けに行く方が災害で被害を受けていなければ助けにいていただくという、そういう仕組みを淀川区でつくっていかうと考えています。だから障がいをお持ちの方も要支援者になるので、自分の情報を地域の方に提供していいですよということで、ご同意さえいただけるのであれば地域の皆さんが障がいをお持ちの方の特性なんかも実際にお聞きしながら、何を一番必要とされているのかということについて、その計画書の中に注意事項という形で記載をしていただくことになっています。ただ計画書に書いたからといって、それが実際にできるわけではないので、今後計画書が出来上がって、今度は防災訓練をやっていく中でそういう方々をどう助けに行って、実際に避難所までどう誘導するとか、津波が来るまでにどうお連れするかとかということについては、これから議論をしていきたいと思いますという、今そんな段階です。(岡本区長)

- ・私は西中島地域ですので、地域的に1丁目のほうみたいに民家が密集している地域と、6丁目、7丁目みたいにビル、ホテルばかりの地域と極端に分かれている地域なのですが、防災の訓練をやったとしても、地域住民の参加というのがやはり年々ちょっとずつ減っていています。現実には昼間人口というのが大きいので、企業さんがどう私たちの活動に参加して下さるかというのが一番大きな課題で、大手の企業さんだったらトップにお願いすればいいですけど、地域的に見てそんなに大手の企業さんばかりではなくて、その企業さんにどうアプローチしていったらいいのか、親しい方だったら話を持っていけるのですが、役所から企業さんにお声がけしていただけたらなと思う部分はあるのです。いざ何かが起きたときに一斉にこちらに来ていただいても困りますし、大手の企業さんは自分のところで備蓄をしているというのは聞いているのですが、そうでない中小のいろいろな企業さんにもやはり自分のところで備蓄できるものであれば、ある程度のは備えるという考え方を持っていただきたいなと思っているのと、防災計画はこの間完成しましたので、それを全戸配布する予定にはしているのですが、多分企業さんのところにも全部それは行くのですが、どこまでそれを理解して行動に移してもらえるのかなというのがちょっと私たちの力だけでは難しいなという部分があるのと、この間、去年の防災訓練で外国の方、西中島は確かに外国の方が多いですので、来ていただいてやったのですが、言葉の問題、スマホを使えばいいじゃないということで、スマホの

翻訳ツールを使ったのですが、その翻訳ツールもあまりうまくいかなくて、連日インターネットが繋がらないと使えないというのがありましたので、翻訳の機械というのが別にネットに繋がらなくても翻訳できるという機械があると思うのです。そんなのを役所から各地域に貸してもらえないのだろうかというのはすごく思ったのです。中の連絡で走り回したことがありましたので、無線かトランシーバーはこっちで用意をしようという話にはなって、今度の今年からは無線とかそんなのを自分たちで使って連絡は走り回さなくてもいいようにしようかなとは思っているのですが、その外国の方の対応ということと、企業さんの対応ということが1つ大きな課題になっているのと、ワンルームに対して入り込めていないのです。オートロックだったらたちまち入って行けませんので、その辺の対策をどうしていったらいいのかなというのがあります。(田中委員)

- ・要援護者なのですがけれども、つい2、3日前ですがけれども、私のマンションで3日ほどお顔を見ないなという高齢の方が独居でいらして、ほかの人が見にいってくれたのです。そうしたらやはり家の中に倒れられて足が動かなくなっていて、急遽連絡を取って、入院という形にはなったのですが、それはもしそのときに3日顔を見ないねと見にいかへんなかったらアウトだったという状況だったのですが、どこかの地域で玄関先にお元気シールみたいなのを毎日出していらっしゃる地域があるというのを聞いたことがあるのですが、それがうちの地域だけがやったらすごく変だし、淀川区全体でやったら、お手間だと思う人も中にはいてはるかも分かりませんが、本当に独居で暮らしている方は何があっても分からないというのがありますので、確かに目を光らせてはいるのですが、そこまで分かりかねるところがすごくありますので、何かいい方法はないものだろうかというふうに思っています。(田中委員)
- ・1人住まいとか要介護とかという方が亡くなられたのですが、何日か分からなかったということで、素人がそういったことを作成されて名前も載っておるのですが、リストを作成するのではなくして、それも大事でしょうけども、ひょっとして何かしておけば倒れたときに何かをしておけば助かった命もあるのではないかなと思うのですが、それにはどうしたらいいんだということで今シールとかということをお聞きしたのですが、手にはめる何とかブザーとか、何かそういったものがとか、身近なものが相手に知らせるとか、表が明らかに光るとか、そういったもので何か対応することはできないだろうかということが多々ありますので、そういったところをよろしくお願いいたしますと思います。(足立議長)

⇒何点か御意見をありがとうございます。あと、企業の問題なのですが、今新

大阪駅周辺のあの帰宅困難者の会議でいろいろと議論はさせていただいています。ですので企業の方については、まずは会社の中に残って急に駅に帰らないとか、あと企業で備蓄なんかはちゃんと用意をしておいてくださいねとかというPRもさせていただいております。

あと、外国人の方の翻訳の関係なのですが、確かにインターネットがつながなくてもいけるようなものがあつたかとも思いますので、またその辺の導入についてはまた予算の関係もありますけど、検討はしたいと思います。

あとワンルームの方、確かに私ら達でも悩むというか、どうアプローチをしていったらいいのかなというのは思いますので、ただ一緒に御意見、相談をさせていただけたらよろしく願いいたします。

あと、3日見なかったと、幸いよかったかと思うのですが、確かにしばらく見ないなといった方に消防が入って、レスキューが入ったらもう亡くなっていたというケースはもう年に何回も報道されております。何か玄関先にマークでもつけたらということなのでしょうけども、ただそれが防犯面でどうなのかというところもいろいろとあるかと思います。それはちょっとずつ地域の方と相談しながら何が一番皆さんにとって分かりやすく、それも伝わりやすいものがないかというのは検討していきたいと思います。また御協力のほどよろしく願いいたします。(山田市民協働課長)

⇒緊急通報システムというものを区役所の3階32番窓口の保健福祉担当で担当させていただいているのですが、御本人さん自身もそういった日頃おうちでいらっしゃるときに例えば急病、先ほどお話がありましたように倒れてしまったりとかという場合に、御自宅の電話に設置するタイプと、御自宅に設置する機械に付随するペンダント型の押しボタンであつたり、あと今は携帯電話型の緊急通報装置ということで、見た目には携帯電話の形なのですが、それで緊急通報ができる装置がありますので、またその方の状況によって対象となる場合とならない場合がありますけども、そういった緊急時に通報ができる装置を押していただいたら、緊急ボタンを押していただいたら、まずコールセンターにつながるということになります。そのコールセンターで担当の者が出て、御本人さんとお話ができると、救急車を呼ばないといけなような状況であれば、コールセンターから救急車を手配すると、もしくは緊急ボタンを押してコールセンターにつながったけども、コールセンターからどうされましたかと聞いても返事がない場合、これはもしかしたら意識を失っておられる場合もありますので、その場合も救急車の手配をする場合もありますし、同時に緊急通報システムの協力者の方をお2人御登録いただいている、どうしてもいない場合もありますので、必ずしも2名とは限らないのですけれども、協力者の方を登録していただける方については、

例えばお近くの協力者の方にもコールセンターから連絡をさせていただいて、救急車も必要な場合であれば救急車も手配いたしますけれども、登録されている方で御近所の方でちょっとすぐに見にいったほしいというような場合には、また登録されている方に御協力をいただいたり、必要に応じて救急車の手配をしたりするような緊急通報装置というのがありますので、またそういったものを対象となる方に御活用いただければなと思っております。

（山川保健福祉課長）

- ・企業の協力は必要だというふうに我々も思っていて、先ほどの高齢者が高齢者が支えるというお話がありましたが、やはり昼間は企業の働き手が地域に必ずいらっしゃるので、企業のご協力を得るために、連携協定とか協力企業という形で、企業さんにご協力を得ようということでやっています。ある地域は今回地区防災計画が改定され、その説明会を企業さんにもやろうと、そのときに区役所も一緒に来てくれということで言われていまして、我々からも地域のそういう防災に協力していただけるのであれば、我々と連携協定を締結しませんかという形で、また、地域と地元企業さんとの防災協定みたいな形で結んでいただくこともできるし、我々としてもそういうバックアップはさせていただこうと思っています。また、防災に限らず地元に貢献したいという企業さんはたくさんあると思うので、そういう企業をもし地域で見つけられていて、区役所も一緒にということであれば、我々もご協力をさせてもらえらると思うので、またお声がけいただければと思っています。（岡本区長）